

受療者は鍼灸等東洋的療法に何を期待するか—一般大学生と鍼灸専門学校生の比較—

- 1) 呉竹医療専門学校
- 2) 東海大学医学部附属大磯病院鍼灸治療室
- 3) 呉竹学園
- 4) 目白大学保健医療学部理学療法学科

藤田洋輔<sup>1)</sup>、高士将典<sup>2)</sup>、八亀俊一郎<sup>1)</sup>、坂本歩<sup>3)</sup>、奈良雅之<sup>4)</sup>

#### 【目的】

近年、美容鍼灸等の普及から、鍼灸は健康度の低くない受療者も対象とするようになってきた。鍼灸に対するニーズが拡大している昨今、鍼灸師を目指す学生にとって、受療者が何を期待して施術を受けるのか知ることは重要である。本研究は、鍼灸等受療に関する期待について、一般大学生と鍼灸専門学校生を対象者として質問紙調査を実施し、その結果を比較検討した。

#### 【方法】

対象は一般大学生 102 名、鍼灸専門学校生 231 名とした。質問紙は、はり、灸、マッサージ等東洋的手技療法の体験の有無（8 項目 2 件法）と鍼灸等東洋的療法への期待（17 項目 5 件法）、外的統制尺度（鎌原・樋口・清水 1982；18 項目）及びフェイスシート等により構成した。調査は 2011 年 5～6 月に実施し、回答は無記名とした。

#### 【結果と考察】

はり治療体験率は一般大学生が 7.8%、鍼灸専門学校生が 82.7%であった。鍼灸等東洋的療法への期待に関する 333 名の回答結果について主因子法、バリマックス回転を用いて因子分析したところ、4 因子が抽出された。第 I 因子 5 項目は「心の問題解決 ( $\alpha=0.803$ )」、第 II 因子 6 項目は「身体の問題解決 ( $\alpha=0.808$ )」、第 III 因子 3 項目は「くつろぎ ( $\alpha=0.604$ )」、第 IV 因子 2 項目は「美容 ( $\alpha=0.725$ )」と解釈した。

期待 4 因子と外的統制得点の相関係数は第 I、第 II、第 IV 因子が有意な正の相関を示した。学校種別及び性別と期待 4 因子について 2 要因分散分析を実施したところ、第 I 因子で学校種別の主効果が、第 IV 因子「美容」で性別の主効果並びに学校種別と性別の交互作用が認められた。

以上の結果から「美容」に関する期待は一般大学生と鍼灸専門学校生で異なる傾向にあることがわかった。

キーワード：受療期待度調査、一般大学生、鍼灸専門学校生、美容